

「ハッピーベジタブル」を農業女子プロジェクトメンバーに実際に栽培してもらいました。
つくって、売って、食べて。どんな発見があったのでしょうか？

農業女子的栽培手帖

～セニヨリータ® レッド・オレンジ・ゴールド～



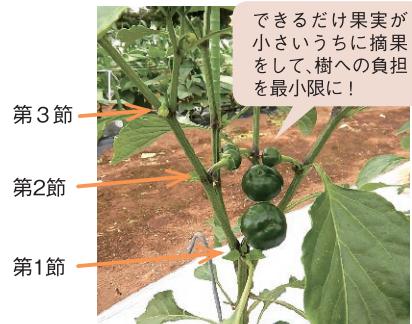
セニヨリータ(レッド)
PVP 品種登録 第10878号(登録名 掛川01)

元気をもらえるビタミンカラーところんとしたかたちが特徴のフルーツパプリカ「セニヨリータ」。栽培面では少し難しい部分もありますが、試行錯誤しながらも挑戦したくなってしまうのは、やっぱりこのかわいらしさのためではないでしょうか。農業女子メンバーに工夫ポイントや魅力を教えてもらいましょう。



「セニヨリータ®」を作りこなす最大のポイントは、 樹勢のコントロールにあり！

「セニヨリータ」は果実サイズが小さいため、一般的なパプリカに比べて色まわりが早いのが特徴です。とはいっても着果性が非常によいという特性もあるため、「たくさん実がつく」と「色づくまで収穫しない」のダブルパンチで、樹に負担がかかりやすくなります。露地栽培なら2~3本立てとし、第3節までは摘果して最初に樹をしっかりつくります。追肥のタイミングや量も少し多めを心がけるとよいでしょう。



まずは摘果！樹がしっかりできるまで、目安として第3節までは、心を鬼にして摘果しましょう。

見逃さないで！「セニヨリータ」の“お疲れサイン”

あなたの「セニヨリータ」は元気モード？お疲れモード？

以下のような“お疲れサイン”を見つけたら、整枝と摘果で株への負担を軽くし、追肥・灌水をおこなって樹勢の回復を見守りましょう。



節間が詰まってきたたり、一箇所に複数の花が咲いたりするようになったら“お疲れサイン”！



まだ果実が小さいのに色がついてしまうのも“お疲れサイン”！

露地栽培とハウス栽培の違い



栽培環境をコントロールしやすいハウス栽培(写真右)は、露地栽培(写真左)に比べて樹勢が安定します。葉が大きく、節間ものびのびとしています。



雌しべが短くなってきた
短花柱花=たんかちゅうか
も“お疲れサイン”！

雌しべが長ければ元気モード(写真左)。



樹をしっかりさせたいので1cmほどの大きさでも全部収穫しています！じつは飲食店に人気なのです。(埼玉県 横本さん)



樹が大きくなって葉が繁るまでは収穫を我慢！緑色のうちに摘果しています。(石川県 高さん)





「セニヨリータ®」にとっても 農業女子にとっても、日焼けは大敵！

实物大！

樹勢のコントロールに次いで農業女子を悩ませているのが日焼け。特に梅雨明け後の酷暑期に発生が多くなります。日焼け果をゼロにするのはなかなか難しいのですが、少しでも軽減するためのあの手・この手をご紹介します。

日焼けの代表的な症状



=屋内退避作戦=

完全に色を回さず、6~7割着色程度で収穫し、追熟させるのもひとつ的方法です。追熟中は蛍光灯などの光の下で常温で管理します。



=木陰作戦=

枝の整理はほどほどに、葉を繁らせて木陰をつくり、果実を太陽から守ります。



今までの経験をふまえて、葉っぱをかなり残すなど対策をしっかりしたところ、日焼け果がほぼ出なくなりました！（榎本さん）



=日傘作戦=

遮光資材を樹の上部に設置します。



三重県
吉川さんの事例



兵庫県
浅川さんの事例

直径6cm
40~50g／果

直径5.5cm
35~45g／果



売場が華やぐ！

ビタミンカラーで魅せる売りかたとサイズ感

カタログでは1果重50~60gを標準サイズとしていますが、露地栽培の場合など、実際はもっと小さい果実になってしまふこともしばしば。でも、心配しないでください！農業女子によれば、お客様によっては小さいサイズのほうがかわいらしくて喜ばれることもあるのだそうです。



ミックス販売するときは、必ず緑色の未熟果を入れるのがポイント！緑が入るのと入らないのとでは、彩りのよさの印象が全く違うので不思議です。



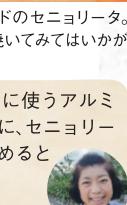
しっかり摘果したら大きな実になりました。直売所では大きなほうが売れますが、レストランでは小ぶりなほうが喜ばれます。（吉川さん）



映えるレシピからお手軽レシピまで めんどくさがり屋さんにはこんな食べかたもおすすめ！

セニヨリータのころんとした座りのよいたちを生かした看板メニューは、肉詰めオーブン焼き。なんとなく手が込んでいてハードルが高いなと思っている方も、セニヨリータなら手軽なレシピでもカラフルな料理に仕上がります！

直径4.5~5cm
20~35g／果



直径3.5~4cm
10~20g／果